

7. 北陸（地域別調査機関：一般財団法人北陸経済研究所）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (北陸)	◎	スナック（経営者）	来客数の動き	・2月は開店休業の日もあったが、貸切営業の日もあった。比較的天候が良かったこともあり、人の出入りがあってホットとしている。ただし、客の業種によっては厳しい話を聞いている。
	○	商店街（代表者）	来客数の動き	・売上は前年同月比で約8.5%増加し、堅調に推移している。今月は春節があったが、中国からのインバウンドによる免税売上は前年比では約4割減り、大きく落ち込んでいる。しかし、台湾や欧米、南米といった他国からのインバウンドが増え、客層が多様化していることに加えて、日本人観光客の購買意欲が極めて旺盛であることが、中国からのインバウンドの減少分を完全に補っている。国内需要と多様な国からのインバウンドが景気を支える安定した構造へ変化している。
	○	一般小売店〔書籍〕（従業員）	販売量の動き	・少しずつ販売量が増えてきている。
	○	コンビニ（店舗管理）	来客数の動き	・前年同月は大雪に見舞われたため、前年比では良い数字が出ているものの、期待値には届いていない。
	○	乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・例年のことであるが、地元業界では春先需要を見込んで販売イベントなどを多く開催しているため、3か月前と比べると販売量は増えている。
	○	その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	来客数の動き	・販売単価に伸びがみられないものの、前年は大雪の影響があったため、前年同期と比較すると全体の買上点数が増えている。春の異動や新生活に向けて購買意欲が向上している。
	○	高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・1月の大雪の反動から、今月は隣県からの来客数が多く、特に後半の3連休はゴールデンウィーク並みの集客となった。
	○	一般レストラン（統括）	来客数の動き	・2月上旬の大雪や衆議院選挙の影響などにより、外出、外食を控える傾向が強かったが、中旬以降、客の動きが活発化し、来客数が上向いている。このまま3月も来客数の上向き傾向を維持するとみている。
	○	通信会社（役員）	販売量の動き	・通信サービス、放送サービス共に契約数が前年同月を上回っている。解約数は前年同月と比べて減少している。
	○	競輪場（職員）	販売量の動き	・車券の売上は前月に引き続き、高い水準で推移している。寒波の影響により、入場者が低迷する動きが見られたが、インターネットを通じた販売が安定した売上をもたらしている。
	□	商店街（代表者）	来客数の動き	・今月前半は寒い日が続き人出が少なかったが、後半は3連休の天候が安定したことや隣接百貨店におけるイベント効果もあり、若者や家族連れが多く来街しており、洋服など春物商材の売行きが好調である。
	□	一般小売店〔精肉〕（店長）	販売量の動き	・ここ数か月、客は家で食事を作るというより、総菜などでささやかなぜいたくをしている状態が続いている。
	□	百貨店（売場主任）	来客数の動き	・前年2月の大雪と今年1月の厳しい寒波の反動で、今月はバレンタインデー商戦で過去最高売上を達成するなど、国内売上が好調に推移している。しかし、インバウンド売上は低迷しており、前々年の実績には届かない見通しである。
	□	百貨店（販売促進担当）	来客数の動き	・物価高騰の影響はあるものの、食品の購入については堅調といえる。しかし、ファッション及び雑貨関連には力強さが無い。

<input type="checkbox"/>	百貨店（販売担当）	お客様の様子	・客の購入に対する慎重さが続いている。商品単価の上昇が更に拡大し、吟味して購入する客が増えている。食品売場は値引きされる時間帯には混雑するが、それ以外はやや閑散としている。低価格志向は継続しており、物産催事なども購入点数が減る傾向がある。食品価格の上昇により客単価も上がっていて、前年並みの売上を維持しているが、来客数は減少が続いている。一方、株高や金高騰などの影響により富裕層の購買意欲は落ちず、更に資産拡大のための絵画、工芸品などの購入が増えている。購入は2極化しているが、全体としては変化がない。
<input type="checkbox"/>	スーパー（仕入担当）	来客数の動き	・来客数に大きな変化がなく、安定して推移している。
<input type="checkbox"/>	衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・客の節約志向が強く、必要な物を厳選して買うため、なかなか売上が上がらない。
<input type="checkbox"/>	衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・前年に内閣が代わり、その期待感で消費意欲が向上していたところに、衆議院選挙を経て政治が安定したことにより、消費動向の安定感が更に増してくる。
<input type="checkbox"/>	家電量販店（店長）	販売量の動き	・必要な物や必要な機能のついた製品しか客は購入しない。
<input type="checkbox"/>	家電量販店（本部）	販売量の動き	・季節要因によって商品群ごとの差はあるものの、全体としては堅調に推移している。
<input type="checkbox"/>	乗用車販売店（総務担当）	販売量の動き	・受注は前年に近い水準まできているが、新車、中古車共に供給不足により、登録数が前年と比べて落ち込んでいる。全体としては3か月前と変わらない。
<input type="checkbox"/>	乗用車販売店（経理）	販売量の動き	・従来1～3月は繁忙期だが、新車の受注から納車までの期間が長期化している影響により、ある意味平準化されている状況である。以前は2～3月に動いていた客がより早く動く傾向にあり、結果として3か月前と同じ水準で推移している。
<input type="checkbox"/>	住関連専門店（役員）	販売量の動き	・依然として耐久財の消費はなかなか回復の兆しがみえない。購入に至るまでの件数が少ない状況が続いている。
<input type="checkbox"/>	その他専門店〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・節分が終わってからは、大変閑散としている。
<input type="checkbox"/>	観光型旅館（経営者）	販売量の動き	・宿泊客数はほぼ前年並みだが、2月は雪の影響がなく3連休もあったため、売上は10%強増加している。
<input type="checkbox"/>	観光型旅館（経理）	それ以外	・2024年1月1日に発生した能登半島地震以降休業状態が続いており、再開までにまだかなりの期間を要する。
<input type="checkbox"/>	都市型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・全体の売上はほぼ前年並みである。宿泊部門とレストラン部門は、前年に雪が多かった反動で前年の売上を上回っているが、宴会部門は下回っている。宴会部門は通年で回復が鈍く、マーケットのニーズが変わったとみている。
<input type="checkbox"/>	通信会社（職員）	お客様の様子	・客の様子に変化がない。
<input type="checkbox"/>	テーマパーク（役員）	来客数の動き	・大雪による公共交通機関の乱れや一部の風評被害、中国からのインバウンドの入込がなくなった影響などもあったが、他の国からのインバウンドが増加していることもあり、全体としては前年と変わらない程度の利用となっている。
<input type="checkbox"/>	美容室（経営者）	来客数の動き	・1月後半の大雪の影響により来店しなかった客が2月になって来店しているため、本来は暇であるはずの今月の来客数が増えている。しかし、全体的に来客数は減り続けている。
<input type="checkbox"/>	住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・金利がやや上昇傾向にあるなか、金利が低いうちに住宅ローンを組みたいという客がまだいると考える。
<input type="checkbox"/>	住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・資材価格の上昇や賃上げによる販売価格の高騰の影響により、高価格帯の商品を検討する客が減少し、競合店との競争が激しくなっている。能登の住宅受注は変わらず好調である。
<input type="checkbox"/>	住宅販売会社（従業員）	単価の動き	・建築資材の高騰により、消費者の動きが慎重になっている。

	□	住宅販売会社 (営業)	来客数の動き	・展示場への来場者数の低迷が続いている。複数社合同によるイベントの集客も振るわず、打つ手が無い状況である。
	▲	一般小売店〔鮮魚〕 (経営全般)	販売量の動き	・物価高による消費者の購買意欲の低下、インバウンド需要の停滞も重なり、販売量が前月よりも落ちている。
	▲	スーパー(役員)	単価の動き	・客単価が下がっている。1品単価の伸びは継続しているが、買上点数がその伸び以上に下回るカテゴリーが出てきている。
	▲	衣料品専門店 (経営者)	それ以外	・物価が上昇しているなかでの金利の上昇は、少なからず購買に影響がある。
	▲	一般レストラン (店長)	来客数の動き	・衆議院選挙、県知事選挙と続き、人の動きがとにかく悪い。インバウンドも日中関係の影響がみられる。
	▲	旅行代理店(従業員)	お客様の様子	・客の動きが低調で、問合せ件数が少ない。
	▲	タクシー運転手	来客数の動き	・衆議院選挙の期間中は繁華街が閑散としていた。地元では県知事選挙の最中であるため、依然として夜の街は閑散としている。県知事選挙が終わらないと元に戻らないと考える。
	×	商店街(代表者)	来客数の動き	・土日の人出はある程度あるが、平日の人出が戻ってこない。郊外店舗も駐車場に車が少なく、にぎわっているようにはみえない。
	×	コンビニ(店長)	それ以外	・売上が微減している。販売単価は上昇しているが販売量は減少しており、利益率の高い商材の買い控えにより粗利率は減少傾向である。経費は2年前から常に前月を上回っており、高騰が続いている。主に人件費を削減し、商品の発注量を抑えて商品の廃棄量を減らすことで利益を確保している。そのため、店頭商品の量が減少しており、売場の活気がなくなっていることが不安である。
企業 動向 関連 (北陸)	◎	精密機械器具製造業(財務担当)	受注量や販売量の動き	・首都圏を中心に販売量が伸びている。
	○	電気機械器具製造業(営業担当)	受注量や販売量の動き	・量産流動品の受注が以前と比較して10%弱増加傾向にある。目先の状況を確認すると、産業用機器関連の受注が増加傾向にある。
	○	通信業(営業)	受注量や販売量の動き	・衆議院選挙の結果や株価の安定により、市場では投資などの活発な動きがあり、受注量が増加傾向にある。
	○	税理士(所長)	取引先の様子	・確定申告で様々な業種の個人事業者の決算を見たり、話を聞いたりしているが、物価高騰のなかにあっても、価格転嫁ができて業者が多く、利益率を確保している。ただし、人手不足の状況は変わらない。
	□	繊維工業(総括)	受注量や販売量の動き	・懸念していた米国の関税措置については、今のところ目立った影響は出ていない。
	□	化学工業(総務担当)	受注量や販売量の動き	・受注量は3か月前と比べて変わらず推移している。
	□	建設業(経営者)	受注量や販売量の動き	・3か月前は年末工期の工事の完成に向けて忙しかったが、現在は3月の年度末に向けて工事の完成に追われ、人手不足気味である。
	□	輸送業(管理会計担当)	受注量や販売量の動き	・運賃は若干上昇しているが、企業間物流の物量に大きな変化はない。
	□	輸送業(経理)	取引先の様子	・取引先が値上げ交渉に応じてくれない。
	□	金融業(融資担当)	取引先の様子	・企業業績は価格転嫁や単価の引上げ効果からおおむね増収だが、利益率は悪化傾向にある。要因としては、仕入価格の上昇を上回る価格転嫁が進んでいないことに加え、人材確保のための人件費増加が挙げられる。受注状況については特段大きな変化はないが、今後各社の利益率が更に悪化したり、価格を改定した場合に受注に影響が出たりすることが考えられる。
□	司法書士	取引先の様子	・不動産の取得や新規の事業展開という動きがある一方、飲食業などでの廃業も多い。	

	▲	食料品製造業 (経営企画)	受注量や販売量 の動き	・能登半島地震での被災から丸2年が経過したが、3年目を迎えて今なお、震災前の売上に届かぬまま推移している。最大の要因は、被災により失った大口の取引の幾つかが、いまだ取り戻せていないことである。
	▲	不動産業(経営者)	受注量や販売量 の動き	・問合せや相談事などがなく、活発な話を聞かない。
	×	—	—	—
雇用 関連	◎	—	—	—
	○	*	*	*
(北陸)	□	職業安定所(職員)	周辺企業の様子	・中国からのインバウンドの減少により宿泊清掃の仕事が減っているという声を聞くが、逆に自動車の板金修理では人手不足のため修理が滞っていると聞いている。専門技術を要する分野の人手不足感は依然として強い。
	□	職業安定所(職員)	求人数の動き	・求職者数、紹介件数、就職者数に大きな変化はないが、前年同月と比較すると有効求人数や有効求人倍率が徐々に下がり続けている。人件費、原材料費、燃料費、水道光熱費の高騰などが影響している。一方、海外取引を行っている企業は、円安の恩恵を受けて売上や利益を伸ばしており、2極化の傾向が高まっている。
	□	民間職業紹介機関(経営者)	求人数の動き	・中小企業における強い人手不足感の傾向は変わらない。求人数はある程度あるものの、求職者ニーズと合致せずマッチングには至っていない状況である。
	▲	人材派遣会社(役員)	周辺企業の様子	・紹介先企業において人を選ぶ傾向が出始めている。
	×	—	—	—